

東京都地方独立行政法人評価委員会
令和3年度第1回公立大学分科会 議事録

1 日時

令和3年5月25日（火曜日） 午後3時00分から午後4時00分まで

2 出席者

大野分科会長、杉谷委員、鈴木委員、高橋委員、田宮委員、村瀬委員、最上委員（50音順）

3 議題（報告事項）

東京都公立大学法人の令和3年度年度計画について

4 その他

令和3年度公立大学分科会等のスケジュールについて

5 議事

・冒頭説明・挨拶

○大野分科会長 定刻になりましたので、ただいまから東京都地方独立行政法人評価委員会令和3年度第1回公立大学分科会を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ウェブ会議を活用したオンライン開催とさせていただきます。色々にご不便な点があろうかと思いますが、ご容赦いただきますようお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、事務局から今年度の体制の紹介と、一言ご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（青木） 事務局の青木と申します。今年度から総務局総務部大学調整担当課長として着任をいたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

初めに、事務局を紹介させていただきます。東京都総務局都立大学調整担当部長の片山でございます。同じく、大学調整担当課長の青木でございます。1年間、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここで部長の片山からご挨拶を申し上げます。

○片山都立大学調整担当部長 4月1日付で着任いたしました総務局都立大学調整担当部長の片山でございます。

本日は委員の皆様、お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様には日頃より業務実績評価、それから目標、計画に係るご審議など、色々な場面で法人に貴重なご意見を数多く賜っておりまして、改めて御礼申し上げます。

さて、昨今の高等教育機関を取り巻く社会状況の変化は、大変著しいものがございます。グローバル化による国境を越えた競争の激化、技術の急速な発展に伴う人材育成の在り方の変容への対応等、各大学・高専が取り組むべき課題は山積していると認識しております。加えて御存じのように、新型コロナウイルス感染症への対応ということで、過去に例のない環境の下での法人運営を余儀なくされているところでございますけれども、反面、オンライン授業の実施等々、デジタル技術を活用した新しい教育方法、こういったことに一層推進することとなった1年でもあったと思います。

都におきましても、昨年度末になりますが、「『未来の東京』戦略」を策定いたしまして、この中でもデジタルテクノロジーを駆使して、新型コロナを乗り越えて持続可能な社会を築き上げることにしております。法人の事業に関しましては5G環境を活用した先端研究の推進ですとか、また、環境問題をはじめとするグローバルな課題解決に貢献するシンクタンク機能の強化などの取組を展開していくことを明らかにしております。

こうしたことも踏まえまして、委員の皆様には前年度の業務実績に関する評価に加え、第三期の中期目標期間の終了時に見込まれる実績に関する評価、また、次期中期目標の策定に向けた審議におきまして、ポストコロナも意識した中期的な視点からのご意見を頂戴したいと考えております。

今年度は次期中期目標に向けた検討も開始するということで、例年にも増してご負担、ご協力をお願いすることになりますけれども、今後法人が様々な課題、あるいは都の政策方針にしっかりと対応しながら、それぞれの大学、高専の強み、特色を磨き、教育研究の質を向上させていけるよう、多様な観点からご意見、ご助言をいただければと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○大野分科会長 片山部長、どうもありがとうございました。

次に、東京都公立大学法人の山本理事長からご挨拶をいただけるとのことですので、どうぞよろしく願いいたします。

○山本理事長 大野先生、ありがとうございます。

本年4月1日、理事長に就任した山本でございます。今年度初めての公立大学分科会ということで、一言ご挨拶をさせていただきます。

理事長として辞令を受けましたときに、小池知事からはグローバル社会における共通のキーワードである持続可能性、サステナビリティに取り組んでほしいとの要請がございました。

日本は今、社会の劇的な転換期にあり、首相は2050年にカーボンニュートラルを実現することを宣言しております。当法人もこれまでに各大学、高専で培ってきました幅広い分野での研究力を基に、都政のシンクタンクとしての機能を強化する予定でございます。今後もとりのわけ気候と環境の非常事態などの問題解決に、学生や教職員の意見も聞きながら法人全体で取り組み、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきたいと思っております。

もちろん、各大学、高専のそれぞれの特長を生かしながら、学生教育の充実、研究力の向上、グローバル化、デジタル・トランスフォーメーションも促進したいと思います。

第三期中期計画期間も今年度で5年目を迎えております。目標達成を目指しつつ、コロナ禍を契機とした様々な課題にも柔軟に対応してまいりたいと考えております。

評価委員の先生方からは今後とも法人や大学、高専の運営につきまして、忌憚のないご意見やご評価をいただければ幸いに存じます。

ありがとうございました。

○大野分科会長 山本理事長、どうもありがとうございました。

山本理事長はここで退席されます。誠にありがとうございました。

・議題（報告事項）：東京都公立大学法人の令和3年度年度計画について

○大野分科会長 それでは、議事に移りたいと思います。本日の議題は次第にありますように、東京都公立大学法人令和3年度年度計画についての報告事項1件でございます。

なお、本日は非公開とすべき事案、案件はございませんので、公開とさせていただきます。

それでは、事務局から本日の資料、ウェブ会議の留意点について説明をお願いいたします。

○事務局（青木） それでは、私から本日の資料及びウェブ会議の留意点等について説明をさせていただきます。

まず、本日の資料について説明をさせていただきます。各資料について、画面共有で表示をしながらご説明をいたします。事前に皆様にも電子データでお送りしておりますので、そちらもご参照いただければと思います。

まず、会議次第、それから委員名簿でございます。

次に、資料1及び資料2、これらは東京都公立大学法人令和3年度年度計画についての資料でございます。資料1が概要版、資料2が本文でございます。これらの内容につきましては、後ほど法人事務局からご説明がございます。

続きまして資料3、令和3年度公立大学分科会等のスケジュール（予定）でございます。こちら後ほど内容を説明させていただきます。

資料の説明は以上でございます。

続きまして、ウェブ会議の留意点についてご説明をさせていただきます。

本日はMicrosoft Teamsのウェブ会議機能を使用しております。通信の安定性を確保する観点から、ご発言いただく方以外はマイクの設定をオフにさせていただきます。ご発言の都度、オン・オフをお切り替えいただきますようお願い申し上げます。

また、ご発言を希望する際には、Teams上の手挙げ機能にて手を挙げていただきましたら、分科会長から指名をさせていただきますので、指名を受けてからご発言をお願い申し上げます。

事務局からの説明は以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

オンライン会議ということで色々ご不便をおかけしますが、ぜひとも協力をお願いしたいと思います。

それでは、報告事項「東京都公立大学法人令和3年度年度計画について」に移りたいと思います。こちらにつきましては、まず法人から年度計画の内容についてご説明をいただきまして、その後、委員の方々からの質疑応答の時間を設けたいと思います。

それでは、法人からのご説明をお願いいたします。

○大道企画財務課長 東京都公立大学法人の経営企画室企画財務課長の大道でございます。評価委員の皆様には貴重なお時間いただきましてありがとうございます。私のほうから10分程度お時間を頂戴いたしまして、当法人の今年度の年度計画についてご説明をさせていただきたいと思っております。

資料1をご確認いただければと思います。全体についてはA4縦の冊子ということで、大きな50ページ以上の年度計画を立てておりますが、本日は要点を抜粋しました資料1でご説明をさせていただきます。

まず1ページ目でございます。一番上の囲みにつきましては、第三期中期計画6年分の重点項目ということで、これまでと同じものを掲載をさせていただいています。今年度は6年間

のうちの5年目という形になります。

その下、緑で囲ってあるところですが、こちらがやはり令和3年度の年度計画を考える際に、我々法人としてどういうふうにかこのコロナ禍というところを捉えていくかと、どういうメッセージを込めていくのかというところを整理したものになっています。そちらに記載のとおりですが、やはり本来考えていた令和3年度の計画というものにはなかなかできない部分もございます。一方で、やはりコロナ禍が指し示した新たなポジティブな部分、デジタルシフトであったりとか働き方、あとはオンライン活用、そういうようなところも見えてきたというところもございますので、そういうものをしっかりと捉えた年度計画にしようということで、法人全体で意識を統一して取り組んできたところがございます。

その結果、その下、令和3年度基本方針ということで、あと2年になりました中期計画の達成を見据えつつ、顕在化した課題、社会の変容というものをしっかりと捉えて計画を立案していこうという趣旨で捉えております。

またその下、紫のところですが、「『未来の東京』戦略」ということで、東京都の長期計画にも我々法人の事業が多く載っております。そうしたものについても盛り込んだ計画という形で取りまとめを行っております。

続いて資料、1ページお進みいただきまして、ここからは各学校の計画についてまとめているページになってございます。

資料の作りのご説明を先にさせていただきますが、左側は現状ということで、これまでの主な取組、昨年度の主な取組ですね。右側が令和3年度の年度計画という形になってございます。また、資料の中に幾つか、例えば緑色のフラグ、「評価結果反映事項」、またピンク色で「対応報告事項」という記載がございますが、こちらは昨年度、こちらの分科会のほうでご指導いただきました対応報告事項、改善すべき点、こういうところについてフラグを立てております。

また、今年度からの資料のまとめ方としまして、赤い星印が幾つかあろうかと思えます。こちらがいわゆるコロナを踏まえてどのように工夫したのかというところについて、分かりやすくお示ししたいと考え、フラグを立てておるところでございます。また、主な方向性、KPIというものも各ブロックごとに記載をさせていただいています。

今、画面に出ておりますのが都立大の教育と研究のページになっております。都立大につきましては、昨年度都立大だけではなくてかなり全国の大学生が非常に厳しい環境に置かれてましたが、そういう中で令和3年度については都立大は新しい対面授業というテーマを掲げまし

て、いわゆるハイブリッドな形で、オンラインでも効果が担保できるものはオンラインを使い、しっかりと対面授業も感染防止を徹底しながら、そういう交流の機会も与えていくというところで、そういうことができるように色々と環境整備もやってまいりました。

例えば星印の1つ目、対面授業の実施、オンライン形式の授業。また、星印の3つ目、コロナ禍の学修環境整備のために学内ネットワーク強化、こういうところについても取り組んできたことを記載させていただいています。

そのほか、一番上のポツに、大学院分野横断プログラムというものがありますが、こちらは文系、理系、医療系の3分野を横断した、「超高齢社会学際プログラム」を新たに開講予定でございます。

また、ポツの5つ目、Soceity5.0という記載もございますが、今後、データサイエンスの分野について、副専攻等も作っていく予定でございます。こういうところへの準備についても今年度、加速してまいりたいと思っております。

また、下段のところですけれども、1つ目の星印のところになりますが、評価結果反映事項等々、記載のございますとおり、昨年度も外部資金の獲得についてご指摘をいただいております。こちらにつきましては、引き続き研究センター等に対する積極的な支援を行っております。やはりこのコロナ禍にあって企業の共同研究等、心配な部分もございますが、様々な情報を分かりやすく先生方にお伝えするというようなところでのマッピング、そういうところも強化してございます。

また、ポツの2つ目、ローカル5G環境という記載がございますが、こちら、昨年度ローカル5Gのアンテナの整備等が整いまして、そちらに記載のとおり、社会の課題解決型研究、また社会実装研究、こういうものを出来上がった5G環境を使って進めたいと思っております。

また、その下にありますとおり、若手研究者への支援、またトップ研究者の招聘、こういうような形の、人員面でもやっていきたいというふうに考えてございます。

続いて社会貢献とグローバル化のページでございます。上段は社会貢献でございます。こちらは、いわゆる都市課題の解決のためにニーズとシーズのマッチングというものは日々やってきておりますけれども、例えばそれ以外に顕著なところでいいますと、一番下の星印のところ、プレミアム・カレッジでございます。昨年度、専攻科というものを新しく立ち上げましたが、令和3年度はそれにさらに加えて、3年目以降の学びということで、研究生コースというものを立ち上げまして、さらにシニアの方々中心に学びの意欲を受け止めるという取組を進めてきております。また、それ以外にも大学発ベンチャーの支援も進めてまいりたいと思っております。

す。

グローバル化でございますが、最もコロナの影響を受けた分野でございます。全て星印がついているところがございますが、やはり今年度取り組んでいくに当たってはオンライン化、オンラインの活用、こういうところも考慮しながら留学促進というものを進めていきたいと考えております。星印の2つ目、留学生の受入れということで、対応報告事項でございますけれども、こちら、受入国の多様化に向けた内容についてもご指摘いただいております。また、プロモーション活動の充実ですとか、あと大学院の博士後期課程、こちらの充実というものを進めてまいりたいと思っております。

続いて産技大のページでございます。産技大につきましては、教育・研究、社会貢献、グローバル、まとめておりますけれども、全体としましては昨年度の研究科再編を経まして、新たな学位プログラムによる修了生の第1期生が出るという年度の特徴がございます。また、教学IR、そういった体制の構築なども進めようと考えております。

1番目の教育・研究のブロックですけれども、そちらの一番上に記載がありますとおり、学位プログラム、主専攻3コースということで再編を行いました。こちらを着実に実施してまいることが、産技大はもともとオンラインについてはかなりやっておいた学校ですけれども、更に社会人の方々が学びやすい環境を整備するということも進めてまいりたいと思っております。

真ん中、社会貢献につきましては、引き続きかなり人気がございますAIITフォーラムであったりとか、シニアスタートアッププログラム、こういうところも着実に進めてまいります。

3のグローバル化につきましては、引き続きアジア諸国とオンラインで繋がりながら、PBL型教育等について進めていくということも考えてございます。

続いて、高専につきましては、大きなトピックスとしましては、品川キャンパスと荒川キャンパス2つございますが、資料の一番上でございます。品川キャンパスにつきましては、本科教育の再編ということで、新たに情報セキュリティであったり、AIだったりというところを入れたコースが立ち上がってございます。こちらについてしっかりと周知を行って入学者を確保していくというところ、また、荒川キャンパスのほうにつきましては医工連携教育プロジェクトということで、そちらに記載のございますとおり、都立大との連携ですとか、そういうところも入れながら、医療分野と工学分野、こういうところのマッチングというものを実施していきたいと考えております。

またポツの2つ目、星印のその下ですが、高専の特徴的なところで、職業教育プログラム

というものを実施してございます。2つありまして、情報セキュリティ技術者、航空技術者、この2つの職業教育プログラム、こちらを着実に実施して、修了生を輩出していきたいというふうに考えてございます。

社会貢献につきましては、中学生向けですとか、あとは都職員向けの情報セキュリティの分野で強みがございますので、こちらの研修という形で社会貢献を進めるような取組をしております。

グローバル化につきましては、特徴的なのはポツの1つ目、JABEEの受審ということで、こちらはいわゆるものづくりの関係の国際的な信用が得られるものでございますので、そちらを受審をするということと、次の星印のところですが、海外とのつながりということで、海外体験プログラムというものをいつも2つやっておるんですが、昨年度は残念ながら実施ができませんでしたが、今年度につきましては、感染症にも対応できるプログラム、オンラインも活用したプログラムという形でまとめて、学生たちに良い機会を提供したいというふうに準備をしておるところでございます。

最後、紫色で載せているページが法人のページでございます。

まず一番上のところですが、赤の対応報告事項等、記載がございますが、過去に大学院入試問題漏えい等の事故がございまして、そちらを受けた再発防止の取組というものが対応報告事項になってございますが、これも引き続き再発防止の取組を実施してまいりたいと考えております。

また、2大学1高専の連携強化についても、ぜひ進めてもらいたいということで、対応報告事項として頂いております。こちらについても、教職員からの情報共有等々も行っておりますし、それ以外にも例えばGCPという都立大や産技大と高専と一緒にやっていく海外のプログラムも今年度、オンラインをうまく使いながら、さらに進めてまいりたいと考えております。

その下のダイヤ印、業務改善等々のところでございます。こちらについては、法人の働き方改革推進計画、こちらを立ち上げました。これに基づきまして法人内、様々なワーキンググループを立ち上げまして、どういう形の働き方改革が各職場でできるか、そういうところも進めてまいりたいと思っておりますし、そちらに記載のとおり、例えば文書事務、旅費事務のシステムによる改善考えていきたいというふうに思っております。

またその下、ポツの4つ目、日野キャンパス新棟ということで、令和3年、4年をかけまして日野キャンパス内に新しい新棟を立ち上げます。こちらで工学部門の集約がなされるという予定でございます。

さらにその下、情報発信等の強化とございますが、こちらがターゲットを絞った戦略的な広報であったりとか、都立大において冊子の大学案内とホームページ、をうまくイメージを一体化させたようなリニューアルも考えてございます。

また、卒業生であったり、同窓会との結びつきというところも対応報告事項として頂いておりますが、都立大の同窓会の法人化というような動きもございます。こういうところからしっかりと連携をした形を模索していきたいと考えてございます。

最後、法令遵守ですけれども、ポツの2つ目、研究コンプライアンス研修につきましては、全員が研修受講したというところですか、あとは情報セキュリティポリシーの遵守徹底、こちらも情報セキュリティの事故が過去に何度かございましたが、こちらを踏まえて意識を向上するというので、研修の受講等を勧めておるところでございます。

以上、少し駆け足ではございましたが、計画の概要についてご説明をさせていただきました。今年度もコロナ禍がまだまだ収束しないという状況がございますけれども、何とか法人の動き、もちろん学生たちの学び、先生たちの研究、そういうところを止めないでさらに進めていくということで、一丸となって進めてまいりたいというふうに考えております。

我々法人部門も、そういう各校と相談、連携しながら様々な支援を行ってまいりたいと考えてございます。

評価委員の先生方には、今後ともよろしく願いいたします。

以上でございます。

○大野分科会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの法人からの年度計画の説明につきまして、質疑応答に入りたいと思います。委員から何かご意見等ございましたら、あるいはご質問も含めてですけれども、お願いしたいと思います。順不同で、どなたからでも結構でございますので、手挙げ機能を使ってお願いできればと思います。

それでは、まず、挙がった順番にということで、最上委員、お願いいたします。

○最上委員 最上です。よろしく申し上げます。

細かいことなんですけれども、都立大の計画の一番最初のところに出てくる「超高齢社会をテーマにした新規プログラムを開講」というところがあるんですが、ちょっと気になっているのは、これは教育のところがございますので、受けるのは学生さんだとして、その超高齢化社会がどれぐらいの先のものとして教育の対象となるのか、ちょっと興味があるんですね。要するに、今講義を受けている学生達が高齢者になった社会をイメージしたプログラムなのか、

それとも今、講義を受けている学生達が高齢者を支えるというような観点でのプログラムを開講するのか、ちょっと細かいことなんですが、そのイメージがつかめなかったので、そのところから教えていただければと思います。

○大野分科会長 では、法人側からご回答お願いできますか。

○大道企画財務課長 法人の大道でございます。対象になってくるのが人文科学研究科、あと都市環境科学研究科と人間健康科学研究科ということで、大学院での研究という形で実施をしております。

対象については、今のところ情報として聞いておるのは、やはり今後の超高齢社会の課題解決のための人材育成を目指しておるんですけども、先々の、どの辺りまでというところ而言うと、自分たちが超高齢になるところまでかどうかというのは少し分からない部分はあるんですが、文系、理系、医療系を横断的に、様々な分野の垣根を越えないと解決できないような課題というのを考えていこうということで、今、全体で5名の先生が横断しながら連携して組み立てていただいているプログラムとなっております。

先の見据え方まで明確にお答えできず、大変申し訳ございません。

○大野分科会長 ありがとうございます。この辺りは、都立大のほうに少し伺わないと分からない部分もあるかもしれませんから、確認し、追って回答いただくということでよろしいでしょうか。

最上先生、それでよろしいですか。

○最上委員 はい、確認させていただきます。

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは続いて村瀬委員、お願いいたします。

○村瀬委員 村瀬です。私は1点だけです。先ほどグローバル化に関するところで、口頭で少し説明いただいた留学生の受入れの多様化に向けた取組という点につきまして、小池知事も「五大大陸を俯瞰する」というキーワードが使われております。私は全く同感でエジプトをはじめとするアフリカ諸国など従来受入れの実績が極めて少ない国や地域からの受入れをどうやって対象を拡大するかが課題であると思います。KPIにおいては、相変わらず留学生受入れ900人程度という数値目標が挙がっておりますけれども、昨年度、私は単純な人数を増やすだけだったらこれは「成果」としては評価させていただきたくないですというふうに申し上げております。これは昨年度の評価の取りまとめのときにも、これは法人からご提案いただくという形で、対応報告事項としてこれを入れていただいたと思います。その際に留学生受入れ地域の拡大に向けた説明会をアジアの色々な地域で行っていくというお話も伺いましたが、やはり具体的な

数値目標として、今、特定の国や地域に偏って8割以上になっているところについて、その構成の多様化についてについて少しコミットいただけるような数値目標もしくは行動計画というものを、もう少し示していただくことを期待しております。この点につきまして何かコメントございますでしょうか。

○大野分科会長 それでは、ご回答をお願いできますか。

○大道企画財務課長 法人の大道でございます。ご発言ありがとうございます。

留学生の多様な国籍からの受入れについては、非常に重要な課題というふうに受け止めさせていただいております。一方で道半ばというんですか、ちょっとこの2年間で急激にというのはなかなか難しいところもあろうかなというふうには思っています。

都立大のほうで今、多様な国からの受入れということについて準備を進めておられるところの具体的な取組としまして、1つは大学院の博士前期課程について英語化を進めていくというのが今年度から開始いたします。進んでいる大学院の専攻もございますが、都のほうからの予算も頂きまして、多くの専攻で英語だけで単位が取れるというような形の取組を進めていくところです。

やはり英語圏、欧米圏からの留学生が少ない状況でございますが、英語化を進める過程の中で、そうしたところからの受入れというのも増やしていけるのではないかなというふうに考えておるのが1つです。

あとはプロモーションという話もございましたが、海外に訴求力のあるジャパン・タイムズ・ウェブというような媒体も活用しながらプロモーションも行っております。なかなか今、海外に出向いていってというのはコロナ禍で難しいんですが、そういうプロモーションも実施しております。

そういうところに取り組みつつ、あとは協定大学との交換留学を盛んにするですとか、あとは欧米との協定大学というところも拡大できないかというようなところも今後の検討課題として起こってくるんじゃないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○村瀬委員 ありがとうございます。正直、大学院の講義を英語でというのが今、日本の大学の多くがやっておられることのようにですが、例えば研究者の成果ががもっと欧文のジャーナルとかに掲載されていないと、やっぱり国際化には目が向けないんじゃないかなというふうに思っています。もっとインパクトのある取組と同時に、私が前回から申し上げておりますが、今、受入留学生の目標が900人であれば、今後の目標値までの増加分については、今、一番留学生

が多い国・地域意外の国・地域で指定するというところで如何でしょうか。クォータ制までいきませんが、海外の大学ですと既にクォータ制を取っている大学は幾らでもあります。ぜひその点、ご検討をいただきたいと思います。

英語で授業をやっても、やはり特定地域の留学生のみが増えることを防ぐことはできないと思います。ですから多様化の取組はやはり別の方法でやっていただきたい。近い将来、世間から都立大を始めとする日本の大学は受け入れている留学生の構成が偏っているんじゃないかというご指摘を受けるリスクは非常に高いと思います。おっしゃるような国と地域を多様化していく、メディアでの露出を強めていくという取組みを進めていく上で、留学生の多様化についてはやはり具体的な取組目標を数値で示していただくべきだと思います。

よろしく願いいたします。

○大野分科会長 ありがとうございます。なかなか難しい問題ですよね。偏っているというのはある程度お金を持ってきてくれる留学生というようなところはあると思うんですよね。村瀬委員がおっしゃったように、ただアフリカというようなところいったときに、お金がなくなると、どうやってお金をつけるかみたいなこともやはり考えなければいけないという部分も出てくるということだと思います。

ですから非常に難しい問題でありますけれども、予算的な裏付けもくっつけて、ぜひとも考えていただくということは大事なかと、分科会長としても思っているところでございます。

○村瀬委員 もう一点だけ付け加えます。都立大や高専ではロシアのトムスク国立大学とか、シンガポールの学校とも盛んに交流されていると思います。先ほどお話にあったように、そういった学校からの留学生受入れ実績を是非、年度で最低で1人とか2人でも挙げていただくということは、ぜひお願いしたいと思います。

以上でございます。

○大道企画財務課長 村瀬委員、ありがとうございます。ご指摘のとおり、やはり数値目標等を立てていくということは重要だと思っています。それは併せて検討はさせていただきつつ、これまではやはり都市外交人材育成基金ということで、都からのお金もやはりアジアを中心にというようなところのコンセプトも多少ございまして、そういう色合いが少し強くなっています。

一方で、やはり今後は多様な地域からというのは重要になってまいりますと思いますので、先ほどご言及いただきましたような協定校との連携というものも今後進めて、単位互換を増やすとか、そういうところも考えていきたいと思っています。

ありがとうございます。

○大野分科会長 よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、田宮委員、お願いいたします。

○田宮委員 最初にお話が出た超高齢社会の分野横断プログラムの件とも少し関わりますが、データサイエンスのプログラムができるというご説明が今あったかと思うんですけども、これはプログラムですか。

○大道企画財務課長 データサイエンスの副専攻というものを今後設置する予定でございまして、いわゆる自分が通っている学部、学科だけではなくて、そこにデータサイエンスの考え方を学べるようするという、副専攻ですね。

○田宮委員 なるほど、分かりました。データサイエンスというのは本当に、言うまでもなくこれから重要になってくると、また、これからの超高齢社会に向けて、私も現在研究で使っているんですけども、医療と介護のレセプトというのが突合して使えるようになって、これって日本にしかない国民皆保険による介護保険のデータ等が非常に貴重で、そこから色々なことを分析ができると思うんですね。医療保険のデータもそうなんですけれども、そういうことは都道府県、市町村が持っていることがあって、普通のところだと県と市町村との関係とかでなかなかデータがうまく融合しないとか、そういう問題が貴重なデータでありながら、色々障壁があるんですね。そういうことを考えますと、東京都というのは意外とそういうことがやりやすいところにあるのかなと思ひまして。

例えば東京都の東京都健康長寿医療センターは、既にそういうデータを分析されて、高齢社会に向けた政策研究などもされておられて、東京都ならではだと思います。それからこの研究所は非常に、全国でも先駆けた高齢者に対する研究所ですので、同じ東京都が持つ宝物として、その辺りを絡めて、すぐには言わなくても、都立大でデータサイエンスの学部を作るのですかとか、データドリブンで超高齢社会に対応していく。それからこのコロナ禍で、日本も感染症対策について非常にデータが脆弱なことが、今色々分かってきていますので、ぜひデジタル化を進めて、高専との連携なども計画にあるようですので、より工学部的なデータサイエンスと、それから医療、公衆衛生的なレセプトの東京都が持つデータとか、それらを有機的に繋げる、また予算も十分に当てることで、ほかの道府県ではできないようなことが何かできるのではないかと伺っておりました。

加えて、東京都のiCDCはその後どうなったのか詳しくは存じ上げないですけども、CDC構想を東京都が早く立ち上げるようなお話を伺っていました。CDCというのはアメリカの疾病コ

ントロールセンターで、平時からデータを駆使してこういうコロナ禍のような感染症等が出てきたときに、また高齢社会もそうですけれども、データを基に対策が立てられるようになっていて、CDCの構想を東京都で持つという、たしかそういう話が今、進んでいるかと思うので。今ご説明を伺っていて、データサイエンス学部ですとか、超高齢社会の取組ですとか、各校の連携ですとか、あとは都として長寿研を擁していることなどですね、その辺りを東京都ならではの形でユニークに進められるチャンスかと思って伺っておりました。少し長くなりましたが、以上、意見でございます。

○大野分科会長 田宮委員、どうもありがとうございました。

これにつきまして、法人側から何かございますか。

○大道企画財務課長 法人の大道でございます。田宮委員ありがとうございます。

都立であるということに関しては、やはり都が持つ様々なデータもそうですし、都も関連している様々な研究機関であるとか、そういうところとの連携というのは非常に重要になってくると思っています。包括協定を結んでいるような団体もございますし、それ以外でも様々な連携は進めています。

ご言及いただきましたiCDCにつきましても、この間、都立大の先生、ご協力をいただいて、分析等についても何か協力ができないかということで、連携もしていたところです。

○田宮委員 そうですか。

○大道企画財務課長 今後またポストコロナというようなキーワードで研究等も進めていく部分、分野はあると思いますので、ご言及いただきました長寿研との連携も含めて考えてまいりたいと思います。

ありがとうございます。

○田宮委員 そうですね、データサイエンスの副専攻を学部横断でつくられるということ、非常に素晴らしいと思います。日本ではおそらく東京都が一番、医療も介護のデータへのアクセスもやりやすい立ち位置にあると思いますので、その辺りのことも東京都とうまく連携して、ぜひ進めていただければと思います。

ありがとうございました。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは高橋委員、お願いします。

○高橋委員 高橋です。以前は名前が首都大学東京だったということもあって、盛んにこういった場でもブランドの確立とか知名度の向上とか、そういったことが大学のほうも産技大のほ

うも言われていたわけなんですけれども、今回拝見して、その辺りの取組がちょっと落ちたかなという印象です。もちろん、色々な強弱があって当然だと思うんですけれども、名前が変わったからオーケーという話ではないと私は思っていて、このすばらしい大学、大学院大学、高専をもっとよく知っていただく。そして社会に知っていただいて、そして優秀な学生、優れた先生、研究者に集まってもらうというのがすごく大事だと思っておりますので、名前が変わったからこうだというわけじゃないとは思いますが、更に力を入れてもよいのではないかなというような気がして、若干もったいないかなというような、取りあえずの印象を持っています。この概要だけ拝見しているので、ちょっと中身まで完全に把握していませんけれども、そんな印象を受けたのですけれども、いかがでしょうか。

よろしく申し上げます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、法人のほうからご発言ありますか。

○大道企画財務課長 高橋委員、ありがとうございます。法人の大道でございます。

おっしゃるとおり、実は令和2年度というのはコロナがなければ名称変更というのが非常に大きな一つの転換点だったと思います。ところが令和2年度、もう4月当初からコロナの対応ということで、法人全体必死になってやってきたところではありますが、当然認知度・プレゼンスの向上というところについて、取組を止めるわけにもいかないと。当然、もっともっと発信していかなきゃいけないということで、資料にもございますが、情報発信等の強化というところで、専門家の分析を踏まえたターゲット別というようなところもございます。

1つは、やはり広報という視点での発信ですね。こちらについてはやはり分かりやすく、更にターゲットをちゃんと明確にしながら、どういうターゲットにどういうものを届けるかというものは大事ななと思っています。例えば都立大もウェブマガジンというものも始めたり、産技大のほうも様々な広報、取り組んでくれています。そうした情報発信、広報というところとプラスして、やはりプレゼンスを高めていくという部分については、広報というだけではなくて、例えば研究力の向上であったりとか、そういうような様々な発信と言いますか、こういう研究をやっていますよとか、こういう成果出ましたよ、といったところももっと、もっと発信していかなければいけないのではないかなと思っています。

そうしたことで、法人全体としてその意識を高めていくことで、全ての取組がプレゼンスの向上につながっていくというような形になっていけばと考えています。

○大野分科会長 ありがとうございます。これはほかの会議体での話ですけれども、第四期中

期目標のほうではかなりブランディングというようなことについて委員からもお話、出ておりました。それが相当盛り込まれてくるというふうに考えております。

もちろん、現在の令和3年度についてもできることはやっていただくということはあろうかと思っておりますので、少しご検討いただければありがたいかなというふうに思います。

よろしいでしょうか。

○高橋委員 はい、結構です。単に広報というのではなくて、それぞれの研究分野等からの発信力を高めてプレゼンスを上げていこうという、それを全体で意識していこうというのはすばらしいと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○大野分科会長 そうですね、ありがとうございます。検討会のほうでは、情報発信だけではなくて、議論として出ているのは、例えば卒業生をどう巻き込むかとか、あるいは寄附であるとか、そういった様々なエコシステムとしてどう回すかみたいなことも色々と議論が出ているところがございますので、またそれもいずれご披露できるときがあるかと思ひます。ありがとうございます。

それでは次に、鈴木委員、お願ひします。

○鈴木委員 どうもありがとうございます。

私のほうから、まず学生の皆さんの学習の環境といひますか、このコロナ禍でオンライン中心になる中で、この緊急事態の中ではやはり、例えば通信環境であったり、またパソコン等の準備であったりということ支援があつたかと思ひますけれども、全体を通じてオンラインというようなキーワードもたくさんある中で、コロナが終わった後も恐らくオンラインで行われる、例えば授業であったり、研究であったり、またキャリアの支援もオンラインでというところがあつたり、オンラインという中で、やはり学生の皆さんの中でそういった環境が、恐らく様々な状況であるといひることがあると思ひますので、継続して学生の皆さん側でオンラインといひたことがだんだんスタンダードになる中で環境整備について、例えば少し時間がたつた中で解決できたことや、また、まだ解決中であること、また、このコロナの終わった後にやはりまだ引き続き検討していく必要があると感じられていることがあれば、教えていただいてもよろしいでしょうか。

○大野分科会長 ありがとうございます。

この点についていかがでしょうか。

○大道企画財務課長 法人の大道でございます。鈴木委員ありがとうございます。おっしゃるとおり、急なコロナ禍で、本当にどうやって学生たちの学びを継続するかということで、2大

学1高専、工夫をしているところです。

例えば都立大で言いますと、やはりオンライン環境というのは当初そこまで整ってはいませんでした。その中で、やはりオンラインで発信しなければいけないということで、いわゆる情報を集約するKibacoというプラットフォームはあるんですが、そういうところの状況改善に取り組んだりしてまいりました。

令和2年度はそういうような形で、まずはできるネットワークを拡充していくということをやってまいりましたが、令和3年度は完全なオンラインではなくて、新しい対面授業という話も先ほどさせていただきましたが、いわゆるオンラインでも良いような、知識教授の部分はオンラインで提供する。一方で、対面で集まったときにはディスカッションであったりとか、アクティブ・ラーニングであったりとか、そういう対面でなければ効果が出ないものについて、積極的に対面でやっていくということで準備をしてまいりました。

そのためには必要だったのは、やはりキャンパス内で対面授業と対面授業の間にオンライン授業を受けるといような環境整備も必要ではないかということで、この間、例えば5G環境もちょっとインターネットにつないでとか、あとはそれ以外にも光ファイバーを引いてWi-Fiを飛ばすといような形のものを工夫してやってまいりました。そういう形でこの4月は迎えたところだったんですが、やはり緊急事態宣言も出まして、今少しずつオンラインの授業も再び増えてきているという状況です。

今後の課題については、やはりそもそもの都立大の学内ネットワークについても、4大学が統合した当時からまだまだネットワークが根本的に強化されているという状況にはございません。ですので、今回のコロナ禍によって指し示された、安定的なインターネットのインフラ整備、あわせて、やはりただインフラというだけではなくて、オンラインであったりとかデジタルのもっと積極的な活用と言いますか、そうしたことを教育に落とし込んでいくといようなところも大事ですので、そういうデジタルトランスフォーメーションということも考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○鈴木委員 どうもありがとうございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

○大野分科会長 ほとんどの委員がご発言いただきましたが、杉谷委員、何かございますか。

○杉谷委員 ありがとうございます。特に質問等はございません。色々と取組を新たに実施されるということで、興味深くお話を伺いました。同じく大学にいる立場としましては、やはり

このコロナ禍で計画どおりに進まないことが色々であろうかと思えます。そういった中でも、今ちょうど伺っていて教育環境の整備とですとか、チャレンジングな取組を色々なさっていることかと思えますので、ぜひ今後のご活動に期待したいと思っております。頑張ってください。

○大野分科会長 杉谷委員、どうもありがとうございました。

では、私のほうからも1点だけよろしいですか。

各大学・高専でコロナに対する対応ということで、昨年度、非常によく取り組んでおられましたし、また令和3年度についても対応を計画されているということで、大変すばらしいというふうに思っています。

それを今回まとめた資料の中でも星印でお示しいただいたというふうなことで、非常に分かりやすいですね。重点化している。ただ、残念なのは法人に星印がないんですよ。法人について見ると、要はコロナ対応をどうしたか。単にコロナ対応というのが喉元過ぎればというふうな話ではなくて、まさにこれを今回コロナに対応することによって、デジタルトランスフォーメーションですとか色々な形で大学の在り方をどんどん変えていくんだと思うんですね。特に法人というのはこの教育研究等々の現場に対してロジスティクスであるというか、あるいはバックヤードというのか、そこである程度そこがしっかりコロナ対応してくれないと、結局実現できないわけですよ。だから法人としてどういうことやるのかということ、ちょっと見えるような形でまとめ直していただくことって大事なんじゃないかなと思いますので、もしもそういうことが修正可能であればと思い、ご発言させていただきます。

いかがでしょうか。

○大道企画財務課長 ありがとうございます。確かに法人のページ、星印がついていないですね。実際はやはりこの1年間というのは学生達、先生達もそうですが、我々職員も本当に四苦八苦した1年でした。そういう中でも生まれてきたのはやはり働き方改革推進計画、そういうところが顕著なのかなと思っています。

テレワークというのが非常に進んだ1年でしたし、そういうところを今後も引き続きやっていくというところはあるかなと思います。

それ以外もやはり、おっしゃったように、どういうふうに発信していくか、見せていくかというところはございますので、こちらについては星印の付け方も含めて、少し整え方を考えてみたいと思います。ありがとうございます。

○大野分科会長 非常に僭越な意見で申し訳ないんですけども。やはり法人が支えているということが各大学・高専、教育研究の現場としては安心感がありますので、やっておられると

いうことは非常によく分かるんですけども、その見せ方といいますか、まとめ方だと思いますので、少し工夫していただくとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

他にいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。非常に活発なご質問やご意見いただきましたので、感謝申し上げます。

それでは、法人におかれましては、先ほどの各委員からのご意見も踏まえまして、今年度の計画達成に取り組んでいただければ大変ありがたいと思います。

それでは、最後に、事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いしたいと思います。

・その他：令和3年度公立大学分科会等のスケジュールについて

○事務局（青木） それでは資料3をご覧ください。今年度の分科会等のスケジュール及び業務実績評価書の作成に向けての進め方について、順を追ってご説明をしたいと思います。

今年度は例年実施している年度評価である令和2年度の業務実績評価に加えまして、第三期中期目標期間の見込評価について、中期目標期間の5事業年度目である今年度に、新たに実施する必要がございます。年度評価、見込評価ともにまとめて実施をいたします。

まず資料3の5月、6月の部分でございますが、評価素案の取りまとめのため、本日以降、6月17日までの約3週間の期間で委員の皆様へに評定と評定説明の作成を行っていただくこととなります。こちらの作業内容につきましては、当分科会閉会后、皆様にご説明をさせていただければと存じます。その後、委員の皆様からいただきました評定と評定説明を基に、事務局のほうで評価素案の取りまとめを行います。

続きまして7月6日の第2回公立大学分科会におきまして、令和2年度の年度評価及び第三期中期目標期間の見込評価に関しまして、2大学1高専及び法人へのヒアリングを行うとともに、年度評価及び見込評価の評価素案についての審議を実施いたします。午前10時半から午後5時まで、1日の会議を想定してございます。大変お忙しい中、恐縮でございますが、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

その後、第2回公立大学分科会において皆様からご意見を頂きまして、それを反映した評価案を作成させていただきます。

8月3日に予定をしております第3回公立大学分科会では、令和2年度の年度評価案及び第三期中期目標期間の見込評価案につきましてはの審議と、令和2年度の財務諸表及び利益処分

案の報告を行う予定でございます。年度評価につきましては、この第3回公立大学分科会にて審議、決定をいたしますけれども、見込評価につきましては評価委員会、いわゆる親会にて改めて審議をいたしまして、決定という流れになります。親会につきましては資料の上段にあるとおり、8月19日に開催を予定しております。親会を経て、年度評価、見込評価ともに評価結果が出揃いますので、その後、知事への報告を行う予定でございます。その後、令和3年第3回都議会定例会におきまして、評価結果を報告するという予定でございます。

年度後半につきましては、現時点では2回の分科会の開催を予定しております。11月に第4回、12月中下旬に第5回ということで、第4回では令和3年度の業務実績評価の方法等について審議をいただく予定でございます。第5回では、法人の役員報酬基準に変更があった場合にはその内容について審議いただくほか、第四期中期目標の検討状況についてご報告をさせていただきます予定でございます。

今後、事務局より日程調整をさせていただければと思います。

今後の予定につきましては以上でございます。

○大野分科会長 どうもありがとうございました。

このスケジュール等も含めまして、何かご質問ございますでしょうか。

特段よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして東京都地方独立行政法人評価委員会令和3年度第1回公立大学分科会を閉会とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。